

安来節全国優勝大会の会場で増田日向子さん（左）・友美子さん（中央）・佐和子さん（右）母娘。

特集

明治から令和へ
つながる伝統文化

安来節リレー

安来市を代表する伝統文化・民謡安来節。今、安来節保存会の会員数は減少しています。そのような中、長い歴史の中で繰り返し返されてきたように、次の世代に脈々と受け継がれている安来節があります。家庭で、学校で、まちで伝わる安来節。明治時代に誕生してから五つ目の時代となる令和時代につながるために、市民として何ができるのでしょうか。

どじょうすくい踊りを練習する第二中学校の2年男子。決めポーズのときの笑顔が大切です。





▲月の輪神事が通過する自治会では仮設のステージが用意されます。このステージでは2日間にわたり安来節などが披露されます。まつりで盛り上がる夜のまちに唄声や拍手が響きます。

昼も夜も安来節が響く安来の夏、本場のまちは特別な存在だった。

日が落ち薄暗くなった頃。遠くで月の輪神事の囃子の音色が聞こえはじめます。その頃、やすぎ月の輪まつり会場周辺では、複数の自治会に設けられた舞台で「安来節流し」が披露されます。

8月15日から3日間は安来節全国優勝大会の期間中。安来節流しに出演する皆さんは、その会場から駆けつけます。まつりの期間中は昼も夜も安来節がまことに響きます。

「昭和40年頃は優勝大会に出場した出雲から米子あたりまでの安来節保存会の各支部が安来節流しとして、まつりで賑わう街中に繰り出していました」と話すのは、出雲正之助さん。「耳の肥えた地元の皆さんに一年の成果を披露するわけです」とかつての様子を語ります。

安来節を習っている全国の皆さんは年に一度、優勝大会に参加するために安来に集います。本場の市民を前に、唄や演奏を披露することもある意味、安来節に関わる人たちのステータスだったのかもしれない。

一方、保存会准名人の野々村府美枝さんは「大会で優勝した

時には、優勝旗を誇らしげに抱えながらまちに繰り出し、流したものです」と話し、「月の輪まつりと言えば安来節、安来節一色だった」と当時を懐かしみつつ「安来節をやっている者にとってもまつりは面白かった」と強調します。

現在、安来節保存会の会員は減少気味。昭和58年には、全国65支部5100人の会員を有していましたが、現在は61支部3000人。国内でいちばん有名な民謡と言われつつも、先行きが不安と言わざるを得ません。

明治時代に誕生し、脈々と唄い踊り継がれてきた安来節。そして、正調の安来節を守る安来節保存会の歴史は、今、明治から数えて5つ目の令和の時代に入りました。



▲安来節全国優勝大会には3日間で約750人が出場。

やすぎ月の輪まつり

8月14日～17日夜に練り歩く月の輪神事（市指定文化財）を中心に、花火大会や安来節踊りなどを開催。神事の由来は出雲風土記に登場する物語と言われる。江戸時代後期には今の形になったと伝わる。周辺の自治会ではステージが設けられ、安来節などが披露され、かつては歩きながら安来節を披露する人たちもいた。



安来節保存会

明治44年に創設。乱れつつあった安来節を憂い、有力者たちが正調の安来節を伝えるべく立ち上げる。現在は全国に61支部、約3,000人の会員。3級から名人まで11の階級制度を採り入れ、種目は唄、絃、鼓、踊り、銭太鼓がある。毎年8月15～17日には安来節全国優勝大会が市内で開催され、全国から会員が出場する。



安来節の歴史

鉄をはじめ物資の集散地として栄えた安来港に出入りする船乗りたちが、各地の民謡を伝え、融合して生まれたのが安来節。明治初期には今の形になったと言われる。明治後年に初代渡部お糸が出現し、全国に普及させた。大正時代には大阪や東京で専門館が誕生。その様子は連続テレビ小説「わろてんか」でも取り上げられた。



母娘でつながる伝統文化、 家の中には安来節の存在がある。

安来節に家族で親しむ増田さん母娘。母・友美子さんと高校3年生・日向子さん、同1年生・佐和子さんです。今年の安来節全国優勝大会には階級や種目は違いますが、3人とも出場。初日から3日目まで誰かがステージへ上がりました。

増田さん母娘と安来節の関わりは三女の妊娠中。「産休・育休で仕事を休んでいたとき、友人に誘われて唄をはじめました」という友美子さんは米子出身。結婚後は安来に居を移した

ので「安来に来たら安来節」ということで習い始めました。今では唄をはじめ絃、鼓もたしなみ、唄と絃は師範の腕前です。「お腹の中で聴かせた唄声や、小さい頃には安来節の練習に連れていきました。母の姿を見て育ったので二人はすんなりと安来節を始めました」と、身近な環境が娘を安来節へ誘ったと友美子さんは話します。

絃の部に出場した日向子さん。出来栄を聞くと「昨年よ



▲絃の部に出場する姉の増田日向子さん。

▼妹の佐和子さんは唄の部に出場。



▼大会のステージは緊張感が漂います。出場者は日ごろの練習の成果をぶつけます。



りいい感じでした。唄い手を励ますような気持ちで弾けました」とのこと。日向子さんは妹の佐和子さんより後に安来節を始めました。

「妹が先に安来節を習い、周リからチャホヤされていたので、自分もやってみようとはじめました」。対抗心からのスタートでしたが今では、「練習を続けていくと、新しい発見があります。例えば鼓は、こうすれば良い音が出ると分かった時は楽しいですね」とその魅力を話します。

また、「普通の家庭だったら接点がありません、保存会の

ろいろな世代の人との出会いがあります。行事等で安来節を披露するとおじいさんおばあさんがとても喜んでくださいます」と安来節を通じた人とのつながりを持っていることが、続ける理由であると明かします。

一方、同じく出場を終えた佐和子さん。『お客さんに見て』という気持ちで自信を持って唄うことができました」とにっこり。現在、高校の部活動の練習があり安来節の練習がづらいときがあると言いますが、「イベントなどで唄を披露すると、お客さんの表情が変わっていくのが楽しいです」と安来節に夢中





▲9月4日、30度越えの体育館の中で安来節の踊りと銭太鼓の練習に励む第二中学校2年生の皆さん。本番は2週間後に迫っています。

のようです。



増田さん母娘はそれぞれが唄や絃・鼓・銭太鼓など複数をそれぞれの師匠の元で習っています。母の友美子さんは「安来節」という共通の話題があつて家の中がとても賑やかです」と話します。妹の佐和子さんも「鼓は一人では練習ができません。私の家族では3人いるので便利で

すよ」と、笑顔で答えます。

姉の日向子さんは来年進学。「高校を卒業しても安来節を続けたい気持ちはあります。県外に出た時は、安来節を辞めるのではなく広めていきたい」。

母の影響で始めた安来節は、娘の周りにさらに広がる可能性を秘めています。母娘という間柄で、自然な感じで伝わる伝統文化がここにありました。

伝統文化を探究することで、地域の一員としての誇りを持つ。

まだ、暑さが残る9月上旬。第二中学校の体育館では、2年生が汗をかきながら安来節の踊りを練習しています。全員で銭太鼓、そして男子生徒はどじょうすくい男踊り、女子生徒は女踊りと難しい動きを繰り返しま

す。なぜなら間もなく、関西への修学旅行があるからです。同校では15年以上にもわたり修学旅行先の観光地で、安来節を披露する取り組みを行っています。

「踊りは難しいです。曲にタイミングが合わないし、みんな揃えようとすると余計に難しい」と話すのは足立恵理さん。学校で安来節を経験すること



▲全員での銭太鼓の練習。





▲9月18日の本番の舞台は東大寺近くの春日野園地（奈良県）。大勢の観光客前で練習の成果をぶつけました。

一方、男踊りで人一倍笑顔を見せていた内田歩夢^{あゆむ}さんは、「伝統文化に触れてみて、長年やり継がれてきたものをみんなで見ることがうれしい」と話し、「当日は安来節を広めるつもりで臨みたいですね。そして安来をもっとPRしたいです」と意気込みます。

とは言え講師からは「まだまだ

外部から気づかさせられる魅力が、未来へのリレーの源になっている。

「イー、アー、サン。アラエツサツサー」。香港からの観光客の皆さんが記念写真に納まります。毎週日曜日午前の安来駅ホームの光景です。今日も安来駅どじょうすくい出迎え隊のメ

だ人前では無理です」とダメ出し。一週間後にある再練習に向けて最後の追い込みが続きます。

同校の竹崎葉子校長は、「安来節は素晴らしい教材です。2年生の総合的な学習の時間では『ふるさと安来のよさを発信しよう』という探究テーマで安来のPR活動を行っています。が、伝統文化を通じて地域を知ったり調べたりできるうえ、地域の人をはじめ県外、さらには外国の人とのコミュニケーションに幅広く活用できます」と力を込めて話します。

また、「修学旅行では単なる踊りの発表だけでなく、外から見た安来を知り、安来の良さを伝えるためにはどうすればいいか考える学習につなげていきたい」と、新たにアンケートや英語での紹介などにも挑戦することを明かします。

ンバーが、特急列車や観光列車の乗客の皆さんを安来らしいおもてなしで出迎えます。観光のため安来駅に降り立つ観光客、あるいは車内のお客さんに安来節やどじょうすくいのパフォー



この日は、特急列車で到着した香港からの7人グループの観光客と記念写真を撮りました。ホームに降り立った時はびっくりした様子でしたが、最後にはみんなが笑顔に。





マンズで笑顔のお土産を届けます。同隊は昨年2月に発足。安来節のどじょうすくい踊りの衣装を着て、特急列車で到着する観光客を出迎えます。観光客に好評で、一緒に写真を撮ったり、

▶安来節を演奏して観光客を出迎える石原奏司郎さん(右)。



時には踊りを披露したりします。車中の皆さんから手を振ってもらうこともあります。今年7月にはJR米子支社から感謝盾が贈られるなど、おもてなしが評価されています。この活動を報道で知り、今春から毎週のように参加しているのが石原奏司郎さん(中学3年生)。「お客さんを迎える姿を見て素敵だと思いました。また、ボランティアでしていることに共感しました」と、参加の理由を話します。自身は安来節保存会会員。唄、絃、鼓を習っているため一人何役もこなします。実際、参加してみたところ外国人や観光客の皆さんの反応が想像する以上に良かったため、

「もつと安来節を知ってほしいと思いました。この活動は一期一会です。さらにいろいろな所で披露していきたいです。そして、改めて安来節を大切にしたいと思いました」。石原さんは地域の宝を再認識したようです。県外からの観光客や外国人など、外部の人から気づかされる安来節の魅力。安来節を未来に伝えるというリレーの大きな源の一つになっています。

(上) 観光列車あめつちと特急やくもが同時に到着。(中) ホームと列車内でお互いに手を振り合います。(下) 生演奏の安来節で踊りを披露します。

「安来節」のパンフレットを新しくしました

問い合わせ：商工観光課
(☎ 23-3110)

市では、安来節の紹介や歴史などを解説したパンフレット「安来節」を今年度、新しく発行しました。イラストを多く使い、踊り方や衣装の説明、年表を使った歴史など、詳しく紹介しています。

また、最近、関心が高まっている銭太鼓の作り方を説明したページを新しく追加しました。





次世代へ安来節のバトンを渡す。 発祥の地の私たちにできること。

「令和という新しい時代になり、安来節保存会も時代とともに変わっていく必要があります」と語るのは、同保存会専務理事の内田修次さん。会員の減少が進む中、平成16年には「銭太鼓の部」の新設、平成20年には少年の部の階級制度の見直しを図り、会員の獲得やモチベーションの向上などに取り組んできました。

また、「全国の各支部でも積極的に慰問を行ったり、イベントに出演したりしています。まずは安来節を知ってもらい、あるいは興味を持ってもらえるように活動しています」と各地の

状況を話します。

それでも、「組織として危機感を持たなければなりません。そういった意味でも、いろんなことに挑戦し、次の時代へと安来節を伝承していきたい」と、これからの抱負を語ります。

一方で、「市民の皆さんには、故郷の伝統文化に興味関心を持ち続けてほしいです。安来節を実際に唄ったり踊ったりしなくても、聴く・見る・理解することによって伝統文化を守ることができま。そのことが、安来節保存会会員の励みにもなりま。すし、未来にもつながります」と、安来節はみんなの共通の財産であることを強調します。



明治から令和へと五つ目の時代に突入した安来節。母娘、学校、外部から、関心を持つ。いろいろな伝え方、伝わり方があります。バトンを受け取るのは発祥の地に住む私たちです。そして、次世代へバトンを渡していくのも私たちです。

安来節ストラップで市職員も安来節をPRしています。

明治から令和へ 安来節の主なできごと

年	できごと
江戸後期	安来節の原型が形づくられる。
明治前期	現在の安来節が完成か？
明治38年	荒文旅館で文部省の役人にお糸の安来節を披露、その出来栄に郷土芸能として保存せよと激励される。
44	正調安来節保存会創設。
大正元年	安来で大正博覧会開催。安来節新歌詞を募集、応募数は一千点余り。
5	鷺印レコードがお糸の安来節二枚吹込み、安来節が全国的に流行・普及するきっかけになる。
8	寄席の不況打開策として安来節に目をつけた大阪吉本興業が安来でスカウトし、道頓堀で大成功をおさめる。東京（木馬館）と大阪の安来節専門館が誕生。全国巡業大一座を組織し全国各地はもとより、朝鮮・台湾・満州まで遠征活躍する。
昭和7年	安来節記念碑を社日公園夕陽丘に建立。永久に安来節発祥の旗印とした。
8	西日本九州一円に安来節の一大宣伝を繰り広げる。
12	家元二代目渡部お糸襲名。
23	初代渡部お糸、安来節の振興ならびに観光宣伝の功労者として第一回文化功労賞を受賞。
24	戦後初の優勝大会開催。
25	支部数30、会員数約500人。保存会組織運営を町に移管。
29	安来市発足。会長に初代市長が就任。
30	お糸まつり創設。
31	家元三代目渡部お糸襲名。





安来節教室開催事業

市では学校や交流センターなどに安来節の指導者を派遣する事業に取り組んでいます。ふるさと学習や趣味のサークルなどで、安来節（唄や踊り）を習ってみたい、体験したいときなど、講師を派遣します。第二中学校もこの制度を活用しており、安来節保存会から指導する講師が2人派遣されました。

○問い合わせ：

商工観光課（☎ 23-3108）

みんなの安来節教室

安来節保存会本部道場（安来の支部）では毎月一回、安来中央交流センターで教室を定期開催しています。唄・絃・鼓・踊り・銭太鼓の全ての種目が対象です。受講は無料。時間は原則、土曜日の19時30分～21時30分です。

踊り衣装の貸し出し

どじょうすくい男踊り・女踊りの衣装を貸し出しています。料金は無料ですが、衣装はクリーニングに出してから返却になります。銭太鼓も貸し出しています。

▼衣装：男女各10着

▼銭太鼓：20セット

○問い合わせ：

商工観光課（☎ 23-3110）

安来市内では定期開催している教室や、安来節保存会の師範が教えている個人教室など、安来節を習う・学ぶ場がたくさんあります。また、安来節グッズの販売なども行っています。詳しいことは、安来節保存会事務局（☎ 28-9988）へ問い合わせください。

練習用DVD

どじょうすくい踊りを分かりやすく解説したDVDを製作しています。安来駅観光交流プラザや安来節演芸館などで販売しています。



安来節をやってみたい・触れてみたいときには

令和元年	30	29	28	27	26	25	23	19	18	17	16	10	9	5	3	平成元年	61	57	54	48	44	38	33	32		
さらなる発展を願う。	安来節の歴史は5つ目の時代に入る。	NHK朝の連続テレビ小説「わろてんか」に安来節女踊りが登場。	浅草「浅草寺」で安来節奉納公演。	「出雲國たたら風土記」が日本遺産認定。民謡安来節は構成文化財となる。	東北支部発表。	安来節を安来市無形民俗文化財に指定。新安来市発足10周年名誉市民顕彰で、初代お糸を名誉市民選定。	出雲大社「平成の大遷宮」奉祝奉納公演で安来節。	安来節保存会創立100周年記念式典。	安来節ドイツ公演。安来節ハワイ公演。	安来節演芸館オープン。安来節パリ公演。	京都「南座」で安来節公演。	銭太鼓の部設立。	長野オリンピック・パラリンピック文化芸術祭参加。	東京支部発表。関東支部発表。	東京浅草木馬亭で三日間の安来節公演。	家元四代目渡部お糸襲名。	会員数増加により地区予選会を8会場にする。	安来節優勝大会を安来節全国優勝大会に改名する。	地区で実施。	会員数増加により地区予選会を6地区で実施。	優勝大会参加者増加により3日間に延長実施する。	少年の部設置。優勝大会に少年の部を導入。	優勝大会に踊の部を導入。	月の輪神事に新作安来節おどりを企画し発表する。	宝塚歌劇団にて安来節踊りを上演。	会則を大きく改正し階級の設定。種目については唄・絃・鼓・踊の部門に分けた。
																										